

平成26年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立北小学校

| 教育目標(めざす児童生徒像) | 今年度の指導の重点 |
|---|--|
| <p>やさしく かしく たくまい 北小の子の育成 ~ どの子にも楽しい学校を どの子にもわかる授業を ~ (児童像) ・思いやりのある言動ができる子ども ・伝え合い、学び合う子ども ・かかわり合い、最後までやりぬく子ども</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1 お互いを理解し、認め合い、思いやりのある言動ができる力を育てる。 2 授業を工夫し、確かな学力の充実を図る。 3 達成感を味わえる活動を取り入れ、人とのつながりを深めさせる。 4 ほめて伸ばす生徒指導の充実を図る。 |

| 調査結果について(調査結果において明らかになったこと) | |
|---|---|
| <p>【学力状況調査の結果】 全国 国語はA問題は県平均をかなり上回っている。B問題は県平均を上回っている。共に全国平均を上回っている。 算数はA問題は平均並み、B問題は県・全国平均を下回っている。</p> <p>県 国語、算数は県平均並みである。 社会、理科においては、県平均を上回っている。</p> <p>国語Aでは、漢字の読み書きの正答率が高い。(例「予防」本校98.1%、県79.4%) 国語Bでは、質問のねらいとして適切なものを選択する問題の正答率が高い。(本校73.6%、県60.4%) 算数Bでは、全体と部分の関係を示すために用いるグラフを適切に選択する問題に課題がある。(本校43.4%、県57.6%)</p> | <p>【学習状況調査の結果】 あいさつは、とてもよくできている。(県平均よりかなりよい、9割) テレビの視聴時間は、2時間～3時間の児童がやや多い。 テレビゲームをする時間、携帯電話を使う時間も2～3時間の児童がやや多い。 家庭での学習時間は、全くない児童はいず、3時間以上している児童も1割以上いるが、1時間未満の児童が3割いる。 読書が好き・どちらかと言えば好きと答えた児童が7割近い、30分以上する児童は3割。 例年通り、「自分にはよいところがある」と自己肯定感も高く、学校に行くのは楽しいと感じている児童や、地域の行事に参加している児童も多い。 将来への夢や目標を持っている児童も多い。</p> |

| 成果と課題 | 課題に対応した改善方法 |
|--|--|
| <p>学習方法を学校で指導したことが、自主学習の取り組みやテストで間違ったところを直し直すなどの割合が高いことにつながっており、指導の成果といえる。 学年末に「各学年これだけは、必ず習得させたい内容を決め、徹底して指導する取り組みをした結果、基礎的な問題について改善が見られた。国語、算数共に低位層の底上げを図ることができた。 学校で落ち着いた雰囲気での授業ができており、自分の考えを持って、グループや学級全体で話し合う機会もとれている。 各教科が好きと解答した割合が高く、学習に対して前向きな児童が多い。特に算数は、少人数指導による個に応じた指導の成果が出ている。 学習に対する意欲は高いが、基礎的・基本的な定着が十分とは言えない。 授業で自分の考えを書く時間や討論の時間をとっていることが、記述問題に対して前向きに取り組む姿勢につながっている。 また、学年によってはその力もついてきている。 算数をはじめ、各教科とも活用型の問題を苦手としている。</p> | <p>学力向上プロジェクトチームを作り、全校で学力向上に取り組む。 次の3つを重点とする。 ① 自分の考えをノートに書く(活動・話し合い活動も多く取り入れる。 くすのきタイム(朝の学習時間)の計画に復習タイムを取り入れて既習事項の定着を図る。 ② 3学期のくすのきタイムでは、「各学年これだけは、必ず習得させたい内容を決め、全教職員で指導にあたる。 ③ その他に、今まで取り組んできた 算数チェックシートを使って児童のつまづきを把握する。それに個別の指導に生かしていく。 学年、学級通信で自学ノートの例や方法、課題のヒントなどを紹介する。 新出漢字指導 確認小テスト 学期末にまとめテスト(合格点に達しなければ再テスト)のサイクルを続けていく テスト実施時に確かめ、直しを必ずさせる。 読書の奨励 等の取り組みを継続していく。</p> |

| 取組の検証方法及び検証時期 | 達成目標(数値目標) |
|--|---|
| <p>保護者・児童アンケートの実施(2学期末) 授業評価シートの活用(学期ごとに) 5年生確かめテストの結果を分析・検証 3年NRTの結果を分析・検証(結果に応じて算数チェックシートを活用)</p> <p>上記の結果を受けて、改善方法の見直しを図る。</p> | <p>各学年の家庭学習の取組時間を規定時間以上にする。 算数基礎問題の平均正答率を県平均まで上げる。 ゲームをする時間が2時間以下の児童を7割以上(今年度63%)に増やす。 スマホを使う時間が1時間以下の児童を9割以上(今年度83%)に増やす。</p> |